

問 乳幼児の家庭内での事故防止は



答 啓発ポスターなどを活用する

公明党 植木 伸寿 議員



乳幼児の注意喚起ポスター

問 現在実施している乳幼児に対する家庭内事故防止への啓発の取組と、今後注意喚起をどう推進するのか。取組を伺う。

答 「赤ちゃん教室」や乳幼児健診の際に、事故と予防のポイントが記載されたパンフレットを配布している。また、1歳6カ月健診の問診に、家庭内で事故防止策を講じているか、という問いを設け、注意喚起をしている。今後も「はぐくみ」専用ダイヤルで、各種相談に応じ継続し

て事故防止に努める。
問 事故防止は、子どもの発達段階に応じた注意喚起が大事ではないか。取組みを伺う。
答 年齢に応じた事故と注意事項を掲載したポスターを掲示し、注意喚起に努める。
問 子どもと接する時間の短いお父さんなどにも、紙芝居などを活用し、注意喚起する場が必要と考えるが、見解を伺う。
答 先進事例を参考に今後も取組を展開する。

問 交流館に対する付帯決議への対応



答 住民との意見交換の場を設ける

光風会 江田 五六 議員

問 ① 工事完成後の管理運営計画の骨子等について ② 住民からは施設の必要性や建設コスト等について疑問視する声も聞かれる ③ 広く村民の理解を得た上で予算執行すること。

答 各コミセンで交流館の基本設計と管理運営計画の骨子について説明。同時に意見交換も行う。

問 コミセンの説明会になぜ教育長は出席しないのか。

答 基本設計の具体的な説明なので実務者の部課長に任せている。

問 江戸時代には民の声に耳を傾ける政治姿勢として「気受け」があった。村は住民の声をどのように取り上げようとしているのか。

答 住民の声も大切であり、行政が政策として取り組むことも大切。

問 光風会として以下を提案。考えを伺う。
 (1) 建物を縮小・予算の見直し。
 (2) 今ある自然環境にマッチングした木造建物に。
 (3) 青少年センターはアイヴィルを使用する。
 (4) 村民の交流は、地域ごとにあるコミセンを充実し、アイヴィルや姉妹都市交流会館等を有効利用する。

答 意見として伺っておく。



県産材を活用した日本一のログハウス風を目指す